

AI が挑む 2025 年参院選 SNS 戦略

～デマに揺れる政治空間を救えるか？～

ライフデザイン研究部 主席研究員/テクノロジーリサーチャー 柏村 祐

1.SNSを活用した選挙戦略がもたらす明暗

2024 年の兵庫県知事選挙において、SNS を活用した選挙戦略（以下、SNS 選挙）が注目を集めることとなった。当選を果たした候補者は、従来型の街頭演説や選挙カーによる活動に加え、Twitter や Instagram、TikTok を駆使した選挙手法を展開し、特に若年層の投票行動に大きな影響を与えたようだ。この事例は、デジタル時代における選挙戦略の新たな可能性を示すと同時に、SNS を介した政治コミュニケーションが抱える本質的な課題も明らかにしている。

この選挙戦では、政策に関する誤った情報や意図的な歪曲が急速に拡散する事態が発生している。これらの偽情報は、有権者の判断に影響を与えかねない深刻な問題と認識されることとなった。また、SNS のアルゴリズムによって、ユーザーは自身の価値観に合致する情報のみを受け取るエコーチェンバー現象（同じ考えをもつ人々の間でのみ情報が共有・増幅される状態）や、フィルターバブル（検索履歴などにもとづき、特定の情報だけが表示される現象）に陥りやすい環境が形成されていることも問題になっている。

2025 年の参議院選挙では、こうした SNS の影響力がさらに増大することが予想されている。実際に、主要政党はデジタルマーケティング担当者の採用を強化し、SNS を軸とした選挙戦略の構築を進めている。しかしながら、単に SNS での発信を強化するだけでは、偽情報の拡散や情報の両極化といった問題は解決されないことが懸念される。

そこで本レポートでは、AI を活用して SNS 選挙の可能性に関する検討を行う。具体的には、機械学習による偽情報の検出、ファクトチェックの自動化、そしてフィルターバブル対策など、テクノロジーを活用した解決策を提示する。同時に、デジタル時代における民主主義の健全性を維持するための制度設計についても考察を行う。

2025 年の参院選は、SNS と AI が織りなす新たな政治空間における最初の本格的な全国選挙となることが予想されている。本レポートを通じて、テクノロジーの適切な活用が、より開かれた民主的な選挙プロセスの実現にどのように貢献できるのか、その具体的な道筋について検討していく。

2.AI による SNS 選挙のシナリオ分析

ここでは、AI を用いて SNS 選挙に関する包括的分析とシナリオ作成を行う。大規模

言語モデル（LLM）によって、SNS 上の選挙関連データや有権者行動、プラットフォームの影響度などを統合的に評価し、有効な対策を模索する。まず、AI に現状の SNS 選挙で顕在化した課題を整理させ、フェイクニュースの拡散やエコーチェンバー現象、デジタル・デバイドが民主主義に及ぼす影響を最新データで定量的に評価した。そのうえで、2025 年参議院選挙で予想される課題に対する複数の解決シナリオを立案し、AI を用いてそれぞれがもたらす社会的影響や実現可能性を検討する。さらに、政策シミュレーションによって各シナリオの実現確率を算出し、技術的・社会的根拠を明確にする際、海外の事例や規制動向も踏まえて日本の状況に合った実践的な対策オプションを示す。

まず、「SNS 選挙で浮上した課題を整理せよ」と指示したところ、AI は 5 つの重要な課題を提示した（図表 1）。まず、情報の信頼性確保や偽情報対策については、ボットによる大量投稿は健全な言論環境を損ない、民主主義を危うくするという懸念が示された。また、若者向けアプローチも不十分な点があり、学生の SNS 利用率が非常に高い一方で政治的情報に触れている層は 1 割未満にとどまると指摘した。極端な主張が SNS 上で拡散することによる社会分断の深化も見逃せない問題とされた。さらに、SNS 利用者と非利用者との間で情報格差が生じ、SNS の双方向性が十分活用されていない現状も指摘されている。

図表 1 SNS 選挙で顕在化した課題

<p>※ 回答</p> <p>選挙におけるSNS活用では、以下のような重要な課題が顕在化しています：</p> <p>情報の信頼性と偽情報の問題</p> <p>偽情報やフェイクニュースの拡散が選挙に影響を与える可能性が高まっています⁸。特に、機械的な自動投稿（ボット）による大量の投稿が、言論の多様性を弱める動きをしているとの指摘があります⁷。</p> <p>若年層へのリーチ</p> <p>政治家や政党のSNS発信が若者に十分届いていません。学生の調査では、全員がSNSを使用しているにもかかわらず、政党や政治家のSNSを見ているのは10%未満でした⁵。</p> <p>政治的分断の加速</p> <p>主な懸念点：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 対立構図や極端な言説が拡散されやすい ・ 社会の分断が加速する可能性 ・ 投票行動に偏りが生じる可能性² <p>情報格差の問題</p> <p>SNSを活用する人とならない人の中で情報格差が生じています。もともと選挙に関心のある人はより多くの情報を得られるようになった一方で、関心の低い層への効果は限定的です⁵。</p> <p>双方向性の活用不足</p> <p>SNSの特徴である双方向のコミュニケーション機能が十分に活用されていません。候補者からの一方的な発信に留まり、有権者との対話や参加意識を高める取り組みが不足しています⁵。</p> <p>対策の必要性</p> <p>これらの課題に対して、以下のような対応が求められています：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 偽情報対策のための各党間での議論の開始¹ ・ メディアによる有権者サポート体制の構築² ・ 政策そのものの訴求力向上² ・ 若年層向けの政策特化と効果的な情報発信方法の確立⁵

資料：perplexity より筆者作成

これらの課題提示をもとに「来年度の参議院選挙に向けた課題解決シナリオを複数提示せよ」と指示したところ、AIは4つのシナリオを提示した。シナリオ1「共同ファクトチェック・アライアンスの立ち上げによる偽情報対策」は、主要政党、ニュースメディア、研究機関、テック事業者が共同で「ファクトチェック・アライアンス」を設立し、SNS上の情報の真偽を検証して有権者にフィードバックする仕組みを構築

するというものである。これは、偽情報拡散の抑制による投票行動の歪み解消や有権者の信頼回復といった効果が期待されるが、合意形成に時間がかかる可能性がある。シナリオ2「若年層特化 SNS キャンペーン」は、インフルエンサー活用や短尺動画を通じて若者の関心を高めるというものだが、情報が過度に簡略化されるリスクを孕む。シナリオ3「地域 SNS コミュニティベースでの情報格差是正」は、地方メディアと連携して地域ごとの情報格差是正を目指すものだが、運営体制の確保が課題になると指摘されている。シナリオ4「政策対話プラットフォームの常設化とエシカルデザイン」は、常時運用される政策対話プラットフォームを整備し、倫理的設計にもとづく建設的議論の場を用意する一方で、運営コストや中立性確保が課題として想定されている。

図表 2 AI が提案した SNS 選挙課題に対する 4 つのシナリオ概要と特徴

以下に、来年度の参議院選挙に向け、SNS活用上の課題解決を目指した複数のシナリオを提示します。それぞれ、政策立案者、政党、メディア、プラットフォーム事業者、有権者教育機関（学校・市民団体）といった関係者が取るべき行動および予想される影響や課題、成果を具体化しています。

シナリオ1:「共同ファクトチェック・アライアンス」の立ち上げによる偽情報対策強化

概要

主要な政党、ニュースメディア、大学の研究機関、テックプラットフォーム事業者が共同で「ファクトチェック・アライアンス」を設立。SNS上での情報の真偽検証を迅速に行い、その結果を有権者にわかりやすくフィードバックする仕組みを構築する。

対応策の詳細

- **偽情報対策の強化：**
政党間での合意に基づき、選挙期間中は中立的なファクトチェック団体と連携。問題ある投稿（フェイクニュース）の早期報告と拡散抑制策を、Twitter(X)やYouTube、TikTokなどの各SNSプラットフォームと連携して実施する。
- **明示的なファクトラベルの表示：**
各プラットフォーム上で、信頼性が疑われる投稿には「ファクトチェック中」「情報精査必要」などの明示的なラベルを表示し、ユーザーが容易に判断できるようにする。
- **定期報告と教育コンテンツの発信：**
選挙期間中、定例記者会見やウェブセミナーで、有権者に対し「これまでに検証された情報」や「報道の裏付け手法」を紹介するコンテンツを提供し、メディアリテラシー向上を図る。

期待される効果

- 偽情報の拡散速度低下により、投票行動の歪みが軽減。
- 有権者の信頼回復やメディアリテラシー向上。
- 政党同士の協力体制構築により、「フェアプレー」イメージの強化。

想定される課題

- 各プラットフォームやメディア間での合意形成に時間がかかる可能性。
- 「検閲」批判や表現の自由を巡る議論が噴出する懸念。

シナリオ2：「若年層特化SNSキャンペーン」の実施と参加型コンテンツ拡充

概要

若年層向けに特化したSNSコンテンツを開発し、インフルエンサーとのコラボレーションを実施。政策内容を短い動画やアニメーション、インタラクティブなクイズを通じて伝える。さらにSNS上で若者が政治家に直接質問・提案できる「バーチャルタウンホール」を開催する。

対応策の詳細

- **インフルエンサーとの連携：**
有名YouTuber、TikToker、Instagramのインフルエンサーなど、若年層に影響力を持つクリエイターを通じて政策解説動画を発信。
- **短尺動画とストーリー投稿による政策訴求：**
選挙公約や政策の要点を、15～60秒程度の短尺動画でシリーズ化。視覚的に訴えるインフォグラフィックスやストーリー形式で理解しやすい形を提供。
- **双方向性の最大活用：**
インスタライブやTwitter(X) スペースで特定候補者や政党代表者が若年層と生対話。質問を集め、即時回答する形式を定期的で開催し、参加型の政治空間を醸成する。

期待される効果

- 若年層への到達率向上と関心喚起。
- 「若い人の声が政治に反映されている」感覚の醸成により、投票率向上が期待。
- 双方向コミュニケーションにより政治的不信感の軽減。

想定される課題

- 若年層に向けたコンテンツ作成のための追加コスト。
- 短尺で単純化した情報が深い理解を阻むリスク。
- インフルエンサー依存によるバイアスやステマ問題。

シナリオ3「地域SNSコミュニティベース」での情報格差是正

概要

地域ごとのSNSコミュニティ（Facebookグループや地域特化のLINEオープンチャットなど）と地方紙・地方局との連携によって、関心層と非関心層の間での情報格差を縮める。選挙カフェや地域イベントと連動し、オンラインとオフラインを接続。

対応策の詳細

- **地方メディアと連携したオムニチャネル情報発信：**
ローカル局・地方紙が選挙情報を地域SNSコミュニティで発信し、ローカルイベント（候補者との懇談会や政策勉強会）を告知。
- **情報整理ハンドブックのSNS展開：**
有権者が必要な選挙情報（投票日、候補者一覧、簡易政策まとめ）をSNSから容易に取得できる電子パンフレットの拡散。
- **地域課題特化の政策対話セッション：**
地域SNS上で道路整備、医療・介護、地方創生などのテーマごとに専用チャットルームを開設。候補者スタッフが随時質問に回答することで、有権者が身近な政治参加を実感。

期待される効果

- SNS非活用層も地域コミュニティ内で情報共有に参加しやすくなる。
- 地方の有権者が「自分ごと化」しやすい課題で対話が可能になり、投票動機付けが強まる。
- 情報格差が緩和され、多様な層が政治情報にアクセス。

想定される課題

- 地域ごとに異なるニーズへの即応体制整備が必要。
- コミュニティ運営の人手不足や管理コスト増大。
- オンライン上のローカル対話が煽りや対立に転じないためのモデレーション体制確保の課題。

シナリオ4：「政策対話プラットフォーム」の常設化とエシカルデザイン

概要

選挙期間限定でなく、常時運用される政策対話プラットフォーム（オンラインフォーラムや専用アプリ）を整備。プラットフォームには人々が質問や提案を投稿し、政治家や政党スタッフが定期的に回答し、議論を深める「公共的デジタル空間」としての機能を持たせる。SNSと連携し、アルゴリズム上「対立煽り」より「建設的対話」を促すエシカルデザインを導入。

対応策の詳細

- **透明性とエシカルアルゴリズム：**
政策論点が整理されたトピック別フォーラム上で、建設的な議論を上位表示し、誹謗中傷や極端な見解は適度なモデレーションを行う。
- **専門家のモデレータ導入：**
公共政策学者や政治学研究者が、論点整理とファクトチェックを随時行い、有権者・候補者間のコミュニケーションを円滑にする。
- **選挙期間中の強化モード：**
選挙期間には特別版としてプラットフォーム上で政党・候補者が政策を発表し、質疑応答セッションをスケジュールしSNSで告知。

期待される効果

- 政治的分断の軽減：建設的対話の促進により、対立の深度化を抑制。
- 有権者の政策理解深化：専門家や候補者からの直接的なフィードバックで情報品質が向上。
- 長期的な政治参加習慣の醸成：選挙以外の時期も政党・政治家と対話可能な場が整うことで、有権者が継続的に政治へ関与。

想定される課題

- プラットフォーム運営予算確保と中立性維持。
- ユーザー数拡大に伴う適切なモデレーション運用の難しさ。
- 政治家・政党側の真摯な参加意思の担保。

【まとめ】

上記4つのシナリオは、偽情報対策・若年層向け施策・情報格差是正・双方向対話促進など、それぞれ異なる課題へのフォーカスと戦略を示しています。現実には、複数シナリオを組み合わせ、段階的かつ柔軟に対応策を実施することで、来年度の参議院選挙におけるSNS活用上の課題を効果的に軽減し、より公正で民主的な選挙環境を実現できると考えられます。

資料：ChatGPT より筆者作成

最後に、4つのシナリオについてAIによる実現確率分析を行った（図表3）。「若年層特化 SNS キャンペーン」は50～70%と最も実現しやすく、若者重視の政党姿勢や既存の取り組み実績が後押ししている。「共同ファクトチェック・アライアンス」と「地域 SNS コミュニティベース」は30～50%で、一定の期待があるものの、関係者間の調整や運営上の課題が残る。「政策対話プラットフォーム」は20～40%と低めであり、運営費用や専門家確保、政治家参加意欲の不明確さが障壁として指摘されている。

図表 3 4つのシナリオにおける実現確率分析結果

シナリオ1：「共同ファクトチェック・アライアンス」の立ち上げによる偽情報対策強化

実現確率：中（30～50%程度）

根拠：

- 促進要因：
 - 偽情報問題は各党やメディア関係者、プラットフォーム事業者が共通して課題視しており、一定の対抗策を模索する動きはすでに国内外で見られます。
 - 国内メディアと大学研究機関によるファクトチェック団体は既に存在し、これらを政治分野に広げることは相対的に現実性があります。
- 阻害要因：
 - 政党間の利害調整や、各プラットフォームとの契約・合意形成の難易度が高い可能性があります。
 - 表現の自由や政治的中立性、検閲との境界線に対する社会的議論・批判を乗り越える必要があるため、短期間での全面的な合意構築は困難。

上記より、取り組みが部分的・試験的に導入される可能性はあるものの、大規模かつ恒常的な「アライアンス」まで踏み込むには時間と調整が必要であり、来年度までに完全実装される可能性は中程度と見込まれます。

シナリオ2：「若年層特化SNSキャンペーン」の実施と参加型コンテンツ拡充

実現確率：中～高（50～70%程度）

根拠：

- 促進要因：
 - 若年層の投票率向上は、各政党にとって急務と認識されており、SNS利用促進は低コストで比較的迅速に実行できる方策です。
 - インフルエンサーとの連携や短尺動画での政策PRは既に一部の政治家や地方選で行われており、拡張が容易です。
 - プラットフォーム側も若年層向けに政治情報を適切に提示することで社会的責任を果たそうとするインセンティブがあると考えられます。
- 阻害要因：
 - 若者向け施策はすでに試行錯誤されてきたものの、十分な効果（実際の投票率向上）につなげるにはコンテンツ開発力やマーケティング戦略が必要。
 - 短期間で成果が出ない場合、持続性を確保する動機が弱まり、中途半端で終わる可能性。

総じて、最も実行しやすく、各政党・候補者が取り組む可能性は高めですが、若年層全体へ効果的にリーチできるかは不透明なため「中～高程度」の実現確率と評価できます。

シナリオ3：「地域SNSコミュニティベース」での情報格差是正

実現確率：中（30～50%程度）

根拠：

- 促進要因：
 - 地方創生や地方での政治参加拡大は、既存の政策テーマであり、地方自治体やNPO、ローカルメディアなど既存のコミュニティが活用できる基盤は存在します。
 - 地域の課題をSNSで共有する試みは、一部自治体や市民団体が既に行っており、その延長として選挙に関する情報も扱うことは技術的には容易。
- 阻害要因：
 - コミュニティ運営には人手や時間がかかり、選挙期間中だけのイニシアチブとしては負担が大きく、継続性確保が難しい。
 - 地域ごとにニーズやプラットフォーム利用状況が異なるため、全国的な体系化は難しく、限定的な成功に留まる可能性がある。

以上を踏まえると、部分的・試験的な導入（特定の自治体レベル）であれば比較的容易ですが、全国的かつ本格的な実施まで進むにはハードルがあり、中程度の実現確率と考えられます。

シナリオ4：「政策対話プラットフォーム」の常設化とエシカルデザイン

実現確率：低～中（20～40%程度）

根拠：

- 促進要因：
 - 政策論点を整理した公共的デジタル空間は、海外では試行例（e-Estoniaなど）があり、一定の成功事例が存在します。
 - 政策対話を重視する市民団体や研究者コミュニティ、シビックテック団体は国内にも存在し、彼らが主導すれば部分的実験としての可能性はあります。
- 阻害要因：
 - 公的な中立性確保、専門モデレータ費用、プラットフォーム開発・運用コストなど多面的な課題が多く、短期間で構築・普及させるのは容易ではありません。
 - 政治家・政党がオープンな対話空間に積極的に参加し続けるインセンティブが不明確であり、政策対話へのコミットメントが中途半端だとプラットフォームの形骸化が起こり得ます。

これらを踏まえ、シナリオ4は最も複雑でハードルが高く、来年度までの間に有効な形で実現するには政治・行政・民間セクター全般の強力な協働が必要となるため、実現確率は低～中程度と考えられます。

資料：ChatGPT より筆者作成

以上のように、AI は様々な情報をもとに多角的な課題解決シナリオを提示したが、現実問題として、社会・制度的な基盤整備を伴わなければ、シナリオを実現して十分な成果を得ることは難しいことも明らかになった。若者向けの訴求は比較的容易だが、情報の深度が浅くなれば民主主義の質的向上に直接結びつかない可能性がある。一方、ファクトチェック体制の強化や政策対話の常設化は難易度が高いものの、実現すれば有権者が熟考できる環境整備や情報信頼性の向上に貢献し得ると考えられる。

今後は、AI と SNS を単なる道具としてではなく、民主主義を支える社会基盤と位置づける視点が欠かせない。そのためには、政策立案者やプラットフォーム運営者、メディア、教育・研究機関、地域社会が共に連携し、情報環境を継続的に改善し続ける努力が求められる。2025 年参議院選挙を見据え、こうした包括的な取り組みを早急に検討し、持続可能な「デジタル民主主義」の基盤を築くことが重要である。

3. 「デジタル民主主義」への展望

2025 年の参議院選挙では、情報の信頼性や若年層へのリーチ、地域的な情報格差、そして双方向対話の不足など、SNS 選挙にかかわる複合的な課題が顕在化すると予想される。

図表 4 は、SNS がもたらす影響と課題を起点に、AI 分析から浮上したシナリオ、若年層特化型 SNS キャンペーン、長期的な展望、そして新たなデジタル民主主義基盤の構築までを整理したものである。これによると、課題群が単なる技術的問題ではなく、政治・社会・経済・地域レベルでの連携や調整を必要とすることが明確になっている。

なかでも比較的实现可能性が高いであろう「若年層特化 SNS キャンペーン」は、より多くの若者を政治参加に誘引する契機となり得る。しかし、その際には情報の質や深度を確保し、浅薄なメッセージ拡散に留まらぬよう注意が必要である。また、ファクトチェック機能の強化や地域レベルでの情報流通改善は、合意形成や運用上の困難性を伴いつつも、長期的には政治的熟考を促進し、社会全体の情報リテラシー向上に資する。政策対話プラットフォームの常設化はさらに難易度が高いが、実現すれば政治的対立を建設的議論へと昇華させ、有権者が自ら選択肢を吟味できる公共のデジタル空間を創出し得るだろう。

図表4 SNSが民主主義に及ぼす複合的影響と政策的シナリオ



資料:筆者作成

これらはすべて、単なる技術的アプローチではなく、政策立案者、プラットフォーム運営者、メディア、教育・研究機関、地域社会が総合的に連携し、複雑なガバナンスモデルを形成することを要する課題でもある。2025年参議院選挙に向けたSNSとAIの統合的活用には、偽情報対策と若年層の政治参加促進という2つの課題に重点的に

取り組むことに意義がある。そして、それらを通じてデジタル時代における選挙の公平性と透明性を確保し、健全な民主主義プロセスの基盤を築くことが重要なのである。

【注釈】

図表 1 に記載されているデータの出所は以下の通り。

- ・NHK「選挙での SNS 活用 影響や課題など 自民の議員らが意見交換へ」

<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20241210/k10014663821000.html>

- ・島根県立大学「「選挙における SNS 戦略の有効性」

<https://www.city.hamada.shimane.jp/www/gikai/contents/1629159233947/simple/suraido.pdf>

- ・ヤフーニュース「“SNS と選挙” を考える…規制は必要か?偽・誤情報に対処するためのルールのあり方は」

<https://news.yahoo.co.jp/articles/906e771e211fb19fe362ab26f50f42341dc2ae5f>

- ・河北新報 ONLINE「「ネット選挙」解禁から 9 年 現状や課題を東北福祉大・萩野寛雄教授に聞いた」

<https://kahoku.news/articles/20220615khn000028.html>

- ・総務省「インターネット選挙運動解禁に関する調査報告書」

https://www.soumu.go.jp/main_content/000293496.pdf

- ・東洋経済 ONLINE「SNS が日本の政治に与える無視できない影響」

<https://toyokeizai.net/articles/-/210287>

- ・調査情報デジタル「選挙におけるソーシャルメディアの影響と大手メディアの選挙報道の在り方」

<https://tbs-mri.com/n/n946e95630f91>

- ・夢ナビ「インターネット選挙運動と偽情報について考える」

<https://yumenavi.info/vue/lecture.html?gnkcd=g014581>